

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouheioh-kouheioh.org



皆さん、今年もあと十日。メツキリ寒くなりましたが、お風邪などひかぬよう、くれぐれもご自愛ください。

さて、寒い季節に、さらに背筋が寒くなる事件が起きています。いや、背筋が寒くなるというより、怒りでこめかみに青筋が立つという人もいるかもしれませんね。そうです。一連のマンション耐震構造計算書偽装問題です。マンションが震度五程度の地震で倒壊するかもしれないという危険極まりない話。住民の皆さんは、怒りと不安で夜も眠れないことと思います。

しかし、どうしてこんな問題が起きてしまったのでしょうか。原因のひとつは一九九八年の建築基準法改正にあります。この改正で、これまで「官」が担ってきた「建築確認」という仕事を民間企業もできるようになりました。「建築確認」とは、建物の設計が建築基準を満たしているかと

うか検査することです。今回の事件は、姉齒元建築士がウソの設計書を作成し、「建築確認」を請け負った民間企業がそれを見逃してしまったことよって起きました。見逃していたというより、設計書をシツカリと検査していなかったということですよ。

「官」の仕事振りが、非効率で、遅い、高い、ということから、「官から民へ」という流れができました。「官」も効率性を求められる時代です。しかし、その一方で、「民」であれば何をしてもいいという訳ではありません。本来やるべき検査をやっていないか、ということには、「民」の怠慢、いや犯罪行為といっても過言ではありません。ウソの設計書の作成はそれ以前の問題です。建築は国民の生命と財産に関わる大事な分野であり、「民」の行う仕事であつても公共性を伴います。「官から民へ」「民にできる

ことは民に」というキャッチフレーズは正しいことですが「官」であれ、「民」であれ、守らなければならぬことがあります。また、「官」には効率が求められる一方、「民」にも公共性が求められる時代です。つまり、「官」と「民」の境界線が曖昧になってきています。「官」でもなく、「民」でもなく、みんな「国民」という括り(くくり)では区別はないのです。「官」であれ、「民」であれ、「国民」として当然の責務を果たさなくてはなりません。

姉齒元設計士をはじめ、この事件の関係者には、事の重大さを認識して、この際、正直に全ての真実を明らかにすることを求めたいと思います。事件が起きてしまった今となつては、それが「国民」として果たす責務でしょう。この問題、来年の通常国会でもシツカリと議論していきたいと思えます。

覚王山ぞぞこナ

(タイトル文字は書家・山内美風さん<TEL: 782-1356>の作品)

—— 覚王山近辺の名店を続々紹介します! ——

<今回は、「ピストロ 坂 Tsukimi」さんです>

3ヶ月振りのこのコーナーです。今回は、先月開店したばかりの、**ピストロ 坂 Tsukimi**さんをご紹介します。お店は広小路通南側、覚王山東の信号よりやや本山方面に下りたところです。

ご主人の田中さんは、**星ヶ丘のフレンチの名店、「ムッシュ・カス」**さんで**19年の修行**の後、このたび晴れてこの覚王山の地に出店された、確かな腕を持つシェフさんです。

メニューはランチコース¥3,000~、ディナーコース¥6,000~、その他単品ととてもシンプル。お店も小ぶりですが、「**自分の目の届く範囲で、しっかりと料理を作りお客様をおもてなししたい**」というのが田中さんの秘めた思いです。

コースは、ランチ、ディナーともに**その値段からは考えられないほどの美味しさと充実度**。皆様も、ご予約の上、お店に入ってみる価値は「大」ではないでしょうか!

ピストロ 坂 Tsukimi : 052-751-9227

